

SSL Live. The new standard for live mixing.



Live. This is SSL.

Solid State Logic
SOUND | | VISION

The SSL Live

The start of something special.

Solid State Logic は、35 年にわたりプロフェッショナルオーディオコンソールの開発、販売を行ってきました。音楽、放送、ポストプロダクション用コンソールで、その時代にそれぞれのマーケットで求められるワークフローに沿った製品を開発しています。効率的で最高の音を生み出す SSL 製品は、創造性に満ち人間工学的にも優れたデザインを持ち、才能あふれるエンジニアと共に効率的で最高の音質を生み出す最高のツールとして存在し続けています。

SSL “Live L500” は、SSL 最初のライブサウンド用コンソールです。Live L500 は、これまでの SSL 製品の DNA を引き継いでおります。皆様が Live L500 に触れたとき、SSL の伝統と特別な物を持ち合わせていると、ご納得頂けると確信しております。

世界中のライブミュージックシーンでのトップエンジニアのワークフロー、またライブオーディオの根底から注意深く検討し、フレッシュなアプローチを取り入れております。“Live L500” は今日のワークフローに必要な機能、そしてパワフルで将来のワークフローで利用できる新しい機能を紹介します。それらは将来のワークフローに新たな創造性を取り入れられる可能性があります。

Live. This is SSL.

Solid State Logic
S O U N D | | V I S I O N

First Principles

The perfect balance of power and control.

Take Control

コントロールサーフェイスに求められる最重要な機能、それはセットアップ全てを見渡せる高い視認性と、触りたいものにすぐに手が行くダイレクトアクセス性です。
“Live L500” は、人間工学的に優れたデザインと質感に加え、ワークフローを熟知した機能的で快適な操作性を実現しています。一般的によく使用する機能やスイッチは能率的にまとめられ、座ったままでいつでも手の届く位置にレイアウトされています。また視認性についてもカラーリングや彩度について検討を重ね、長時間のオペレーションでも疲労を低減するようデザインされています。“Live L500” のコントロールサーフェイスは大胆かつ繊細に操作できるタッチパネルとハードウェアスイッチとのコンビネーションで、ワークフローに沿って様々な機能を真に直感的にオペレーションできる新しいインターフェイスです。



The Power to Connect

多くのメーカーは彼らの製品はスペシャルとお話されるでしょう。それらの製品が特別なテクノロジーで、たくさんの処理チャンネル数を持ち合わせている等、他より強力と力説されるでしょう。SSLは持ち合わせているテクノロジーを、どの様に使用すればエンジニアのディリーワークを更によいものに出来るか、またどの様にそのお手伝いができるかにフォーカスをあてています。SSLの“Live L500”は、新しい“Tempest”プラットフォームを使用しており、これまでになかった全く新しいプロセッシングのテクノロジーを採用しています。しかしながら重要なのは、新しいプロセッシング技術が否かより、コンソールをオペレーションする上でいかにバランスよくオーディオ処理とコントロールの配分ができるかという点が大切だと私たちは信じています。



Live. This is SSL.

Solid State Logic
S O U N D | | V I S I O N

Control Surface

Up Close and Personal.

SSL “Live L500” のコントロールサーフェイスは、SSLの数十年にわたるコンソールデザインの経験とライブサウンドプロダクションの現場からの要求に基づきデザインされています。人間工学的に優れているだけでなく、オペレーターが様々なシーンにおいていつでも直観的かつ効率的にコンソールのユニークな機能にアクセスできるようにレイアウトされ、タッチパネルとハードウェアスイッチとをシームレスに統合した操作系はしたいときにしたい方法で操作できる新しいインターフェイスです。

コントロールサーフェイスにマウントされている 19 インチ高輝度高解像度タッチスクリーンは、コンソールシステムのビジュアルフィードバックとセッティング操作、そしてエフェクトラック操作の中核として機能します。ライブコンソールとして初めてのマルチタッチ・ジェスチャーコントロール対応のタッチスクリーンは、様々なパラメーターを直観的かつ効率的にオペレーションするためのインターフェイスを提供します。さらに独立したシステムモニター用スクリーンは、チャンネル、VCA、ステムグループ、Aux といったシグナルパスの様子やシステムレベルのフィードバックと状態表示を新たなメニューの呼び出しやレイヤー・バンク切り替えといった動作を必要とせずに包括的に表示します。メインスクリーンはメインフェーダータイトルの 12 個の “クイック・コントロール” セット (一つのロータリーコントロールと 3 つの専用スイッチからなります) と共に使用できます。クイック・コントロールは、例えば同じパラメーターをコントロールするように割り当てることができ、またその割り当てられた機能はいつでもフェーダーとフリップしてフェーダーからコントロールすることも可能です。カラーコーディングも同時に割り当てられ、スクリーンの表示とクイック・コントロールの機能、フェーダーとコントロールタイトルに何が表示されているかを瞬時に判別できます。

ユニークなチャンネルコントロールパネルは色分けされたロータリーコントロール (ポット) に囲まれた専用的高精細タッチスクリーンを持ち、選択したシグナルパスの EQ やダイナミクス、インサートしたエフェクトなどをすぐに直接コントロールできます。また “フォーカス・フェーダー” とのコンビネーションによって、エンジニアはその場に居ながらにして選択したシグナルパスの様々なコントロールとフェーダーコントロールとを同時に行えます。



Multi Gesture Touch Screen

タッチスクリーン技術そのものは、珍しいものではありませんが、“Live L500” のメインディスプレイは、ライブ用コンソールとして初めてマルチタッチ対応のタブレットスタイルタッチスクリーンを採用いたしました。さらに昼光下でも視認性を確保する高輝度高詳細ディスプレイを採用しています。

我々はコンソールの全ての状態を包括的に監視できるグラフィカルインターフェイスを慎重にデザインしました。これによりルーティング、ミュートグループ、VCA、Aux などのセットアップを簡単かつ素早く行えます。さらに、ここに EQ やダイナミクス、エフェクトが割り当てられたときには比類のない情報量とダイレクトな操作感、そして何よりも楽しいオペレーションが可能となります。



Fader Tile

フェーダータイトルは、シグナルパスのコントロールを行ないます。コンソールのフェーダーには、チャンネル、VCA を含む様々な種類のシグナルパスを、分かりやすい色分けと共に自在に割り当てすることができます。フェーダータイトルは、それぞれ独立しており、コンソールのどの場所にでも簡単に入れ替えることができます。

それぞれのタイトルには、12 本のフェーダーストリップが装備されています。100mm ストロークのモータライズドフェーダーと Solo/Mute ボタン、Query ボタン (どこからそのフェーダーに、フェーダーからどこにルートされているかを表示)、セレクトボタン (ストリップスクリーンファンクションまたはフォーカスフェーダーへ割り当て)、個別の文字表示ディスプレイと、クイックコントロールが装備されています。さらに個々のフェーダー横には 14 セグメント表示のレベルメーターが、ゲート・コンプレッションメーターとは別に装備されています。フェーダーの右側には、レイヤー/バンクセレクトボタンがあり、様々なタイトルの機能呼び出しで使用できます。



Channel Control Tile

ハードウェアスイッチでパラメーターのコントロールを行いたいエンジニアのために、チャンネルコントロールタイトルがあります。7.5 インチの高精細タッチスクリーンと 15 個のポット、それに付随する多くのスイッチが EQ、ダイナミクス、パンニングやインサートしたエフェクトにあわせて専用ポット、スイッチとして機能し、各パラメーターに直接アクセスできます。Aux、ステムグループ、マスターも同様のコントロールが行なえます。



System Monitor

ライブセッションの現場では、音声系統全体の様子をしっかりと把握できることがとても重要です。例えばあるシグナルパスの状態を確認したいときに、コンソールのメインディスプレイを使用して他のモニタリングを邪魔したくはありませんし、かといってレイヤーやバンクメニューをめくって探し回ることもしばしばありません。

“Live L500” では、専用のシステムモニタリングスクリーン出力を装備しています。オプションのブームアームを使用して汎用の LCD モニターをコンソールの右または左側にマウントできます。この外部ディスプレイには、チャンネル、Aux、ステムグループ、VCA、マスターバス、Soloバスといったコンソールの各シグナルパスを一括で表示でき、レベルメータリングやクリッピング、Solo/Mute ステータスなども確認できます。

Evolution and Revolution

Work Your Way.

私たちは皆、それぞれのやり方を持っています。そしてそれは常に全て正しいのです。コントロールサーフェイスのデザインを考えると、SSLは常に「全ての人が自分のやりたいように仕事できる」操作環境を提供することを最優先としてきました。SSL “Live L500”では、ほとんどの操作をタッチスクリーンとハードウェアコントロールの双方から行えるよう、そして併せて同時に操作できるように設計されています。SSLは使い慣れた伝統的なものとしてだけでなく、新しい方法を見つけ喜ばれるツールを提供しています。



VCA's, Mute Groups & Main Fader

SSL “Live L500”には現代のライブコンソールとして必要な機能を豊富に装備しています。

“Live L500”では32のVCAグループと10のミュートグループを作成できます。すべてのフェーダーはVCAグループに割り当てることができ、ミュートグループはマスタータイトルに専用のボタン群を持っています。

すべてのチャンネルはタッチパネルのチャンネルアサインメニューからVCAまたはミュートグループに割り当てられます。また、すべてのチャンネル、ステムグループ、Aux、VCAマスターフェーダー、マトリックスアウトはマスタータイトルにあるメインフェーダーに割り当てることができます。



Focus Fader

素早い操作が可能となるフォーカスフェーダーというコンセプトは、ライブコンソールに初めて採用される機能です。マスタータイトルにある専用のフェーダーストリップはオペレーターの右手を置きやすい完璧なポジションにレイアウトされています。このフェーダーストリップは選択されているチャンネルに追従するため、左手でチャンネルを選択し右手でコントロールを行うという流れで必要な操作を連続して素早く行うことができます。

またフォーカスフェーダーによるワークフローによって、同様に選択に追従するチャンネルコントロールタイトルと連携させ、全てのパラメーターをハードウェアスイッチから直接コントロールできます。



Automation

ご存知の通り、SSLは30年以上前に初めてのコンソールオートメーションシステムを世に出したメーカーです。SSL “Live L500”はレコーディングスタジオや放送局で培われた比類のないオートメーションシステムを採用しています。多岐にわたるフィルターによって必要なパラメーターだけを厳密に設定でき、コンソール全般にわたる設定だけでなくシーンごとに細かく正確にストア/リコールすることができます。

シーングループはすべての選択されたシーンを一括で編集することを可能にし、シーンはそれぞれスイッチまたは外部からのトリガーによってリコールできます。シーンにはEyeconixやコンソールの照明の情報まで含むことが可能です。



Solo & Talkback

SSL “Live L500”は強力なSoloシステムを搭載しています。2系統の独立したSoloパスにはそれぞれ専用のプッシュ/セレクトレベルコントロールがあり3系統の独立した出力、例えばウェッジ、ヘッドフォン、イヤモニターに送ることができます。Solo選択の小さなマトリックスと出力選択のボタンによってそれぞれあるいは両方のSoloパスから3系統の出力に個別あるいは全てへと簡単に送れます。2系統のトークバックパスと2系統のトークバック出力もまたそれぞれ専用のコントロールとルーティングボタンを持ち、同じ方法で出力できます。またすべてのチャンネルはSoloパスとトークバックパスにルーティングできます。

Flexible Ergonomics

Everything In Its Place.

SSL はテクノロジーによって創造性が損なわれてはならないと考えています。SSL “Live L500” は非常に高い自由度でチャンネルレイアウトを構築でき、強力なリコール機能、カラーコーディングと美しいスクリーングラフィックとのコンビネーションにより、心地よくオペレーションする喜びを感じられる環境を実現しました。



Colour Function

コンソールからエンジニアへのビジュアルフィードバックは極めて重要です。“Live L500” は、色の美しさにもこだわりました。フェーダーストリップは、そのストリップが どのシグナルパス (チャンネル、VCA、Aux 等) か、あるいはチャンネルの楽器グループ (ドラムス、ヴォーカルなど) かを瞬時に判別できます。使用する色はエンジニアにより自由に選択でき、そのフェーダーストリップにいま何が割り当てられているかが分かりやすく視認できます。フェーダーストリップ内のコントロールもまたパラメーターの調整 (EQ パラメーター、Aux レベル) のためにデザインされ、チャンネルコントロールタイトルもユーザーによって色分けが可能です。様々なパラメーターコントロールのために割り当てられているものに対して、タッチスクリーンとハードウェア双方が追従しています。

Live. This is SSL.

Layers and Banking

SSL では 20 年以上にわたって放送、音楽、ポストプロダクションの各分野でデジタルコンソールの経験を積み、チャンネルのレイヤーやバンクの考え方、操作性の向上を追求してきました。“Live L500” のレイヤーは、自由度が高く且つワークスペースを自在に構築でき、たとえば大規模なプロジェクトにおいても分かりやすくアクセスしやすい環境を作り出すことができます。



Spill

時として、単純であることは最良です。“Live L500” では、ユニークな “Spill” 機能によって個々のチャンネルを LCR またはステレオパスとして 1 本のフェーダーにまとめることができます。Spill でまとめたチャンネルはいつでもそのまとめたフェーダーの隣に展開でき、パラメーターの調整などを行ったあと再びまとめて 1 本のフェーダーで取り扱うことができます。これによりレイアウトスペースを効率化でき、マルチチャンネルの素材を省スペースに並べて扱うことができます。

Eyeconix

バンクを使用するような多チャンネルなプロジェクトの場合、個々のチャンネルを素早く正しく把握できることはストレスのない運用には欠かせません。SSL のユニークな “Eyeconix” 機能は個々のチャンネルの上に任意の画像ファイルを表示させる機能です。これにより各チャンネルの素材の把握がより簡単になり、求めるチャンネルにすぐに手が行くような環境が作れます。

Channel Architecture

Channels

“Live L500”のチャンネルアーキテクチャーは、自由度が非常に高く容易にコンフィグレーションが組める様デザインされています。チャンネルは専用のプロセッシングパワーを持ち合わせている Full とチャンネルと、プロセッシング機能をセーブした Dry チャンネルから選択できます。

Full チャンネルには、たくさんのプロセッシングツールが装備され、ハイ/ローパスフィルター、4バンドパラメトリックEQ(SSLのユニークな2つの特性が選択可)、新しい真空管サウンドデイストが選べるコンプレッサー、ゲート/エキスパンダー、ディレイ、パンニング、オールパスフィルター、またインサートポイントも2つ装備されています。Dry チャンネルは、プロセッシングを必要としないシグナルパスに使用でき、2つのインサートポイントが装備されています。

Stem Groups

SSLは、“Live L500”でこれまでライブコンソールには無かった新しいシグナルパス“Stem Group”(ステムグループ)を搭載しました。ステムグループは伝統的なグループと似ていますが、新しい機能を搭載し強力により便利な使い方ができます。Full ステムグループは、Full チャンネルの機能から Mic/Line 入力部を除いたプロセッシング機能とルーティング機能を持ち合わせたシグナルパスです。例えば複数のチャンネルをまとめてエフェクターなどに送る事ができます。Dry ステムグループは、Dry チャンネルと同様に処理能力の消費量が少ないパスで、シンプルなグループバスやエフェクトセンド・リターンなどに使用できます。チャンネルや Aux、マスター同様にステレオや LCR にフォーマットができ、伝統的なグループとは異なり別のステムグループにもルーティングする事が可能なため、より複雑で多様な要求に応えるミキシング環境の構築が可能です。

Process Order

“Live L500”はシグナルパスのプロセッシングの順番を変えられるユニークな機能を持っています。チャンネル、ステムグループ、マスターなどのパスにあるプロセッシングブロック(EQ、ダイナミクスなど)の順番を、メインのタッチスクリーンで任意の場所にドラッグアンドドロップさせることによりリアルタイムでプロセッシングの順番を変更できます。



Built For The Road

Ready For The All Weather Hard Knocks Life Of The Road.

SSLは製品の品質の高さと手厚いサポートに定評があります。“Live L500”は使用環境を考慮しシャシーを鉄製とする選択をし、持ち運ぶことを前提とした構成物の重量バランスを考え、二人で安全に持ち上げるために最適な位置に持ち手を配置しています。また、“Live L500”は太陽光下での運用も考慮しています。高輝度のタッチスクリーンと強力な多色LEDを採用し、日中でも非常にクリアに情報を表示します。逆に低照度の環境下ではコンソールトップに内蔵したライトがコントロールサーフェイスを照らします。コンソール各所の明るさをコントロールする3つのポットがコンソール右上に用意されています。それぞれスクリーンの照度、コンソールトップ内蔵ライトの照度をコントロールできます。またこれらのコントロールはオートメーションに追従し、シーンやセッションに合わせて明るさをリコールすることができます。

コンソールは1台だけとは限りません。コンソールサーフェイスのUSBポートには、汎用のUSBメモリーを挿入してコンソールの設定やセッション情報、オートメーションデータを保存、移動することができます。コンソールの強力なオートメーションシステムは多岐にわたるフィルターによって必要なパラメーターだけを厳密に設定でき、コンソール全般にわたる設定だけでなく、シーン単位で細かく正確にストア/リコールができ、例えば“アウトプットマトリクスEQ以外をリコールする”といった細かい要求が可能です。



Flightcases available as an option.

Live. This is SSL.

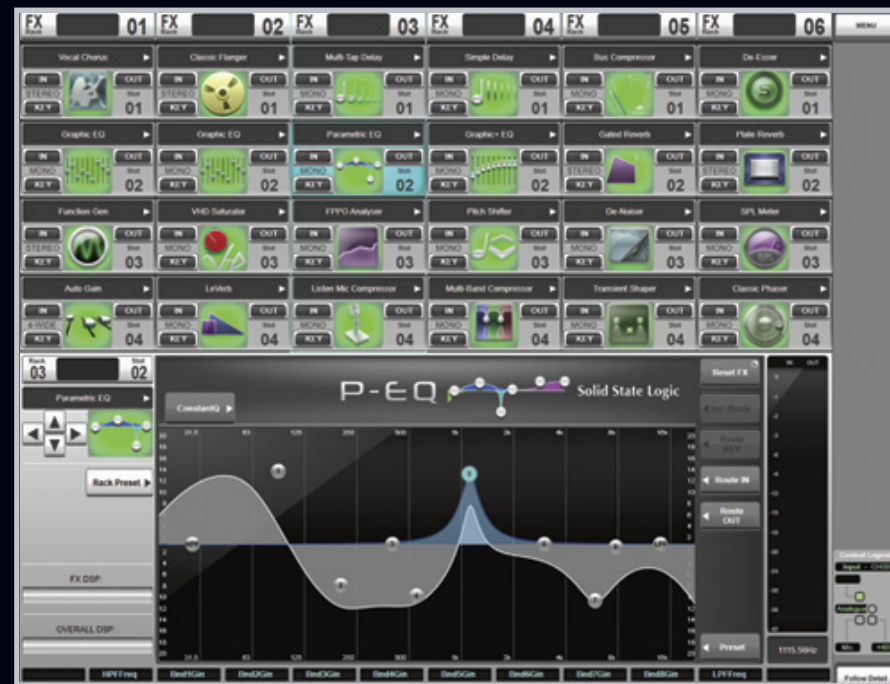
Solid State Logic
SOUND | | VISION

Audio Precision

No Compromise.

SSL コンソールのオーディオパフォーマンスはプロフェッショナルオーディオのサウンドクオリティを語るうえで常に基準とされてきました。SSL “Live L500” を生み出す際にも最高の音質を実現することは第一に考えられた重要な要素です。何も犠牲にすることなく最高の音質を生み出す、そのために “Live L500” のローカル I/O とステージボックスは SSL の SuperAnalogue™ パフォーマンスと業界の標準よりも高級なスタジオグレードのマイクプリを 24bit/96kHz DAC と組み合わせ、周波数応答特性は 20 Hz～20 KHz で 0.05 dB 以下 (10Hz で 1.3dB 以下のダウン)、歪率は 0.005% を実現しています。64-bit で行われる内部処理は最高の再現性と大量に接続されるすべての I/O のオーディオパフォーマンスを完全にサポートします。

“Live L500” には、歴代のミキシングエンジニアがヒットレコードを生み出す際に使っていた様々なサウンドツールを新開発のプロセッシングで実現したツールキットが内蔵されています。Full プロセッシングパスはスロープを選べる HPF、LPF、2つのカラー (SSL 伝統のサウンドか固定 Q 値か選択可能) を選べる 4 バンドパラメトリック EQ、独立したコンプレッサーとして使用できる SSL ダイナミクス、エキスパンダー/ゲート、ディレイ、真空管エミュレーター、オールパスフィルターなどを装備しています。さらに正確なスペクトラムアナライザーなどの音響解析ツールや、SSL の放送用デジタルコンソールで培われた新技術 “ダイアログ・オートミックス” などとも搭載されています。

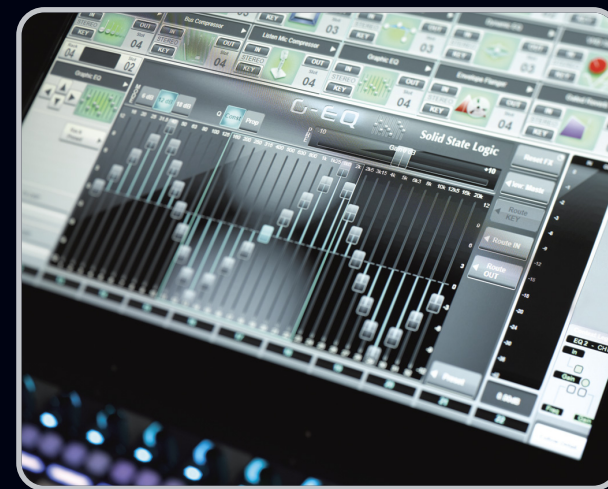


Effects Rack

“Live L500” は、コンソール内部にエフェクトラックを構築できます。エフェクトラックは、チャンネル、Aux、ステムグループ、マスターの各シグナルパスのインサートポイントからルーターを介して使用できます。エフェクターは大きく 8 つカテゴリーに分けられ、約 30 種類のエフェクターが内蔵されています。

エフェクトラックは専用のプロセッサー (ハードウェア DSP) を使用していますので、ローレイテンシー、スタジオクオリティの音質が得られます。

Effects



EQ

“Live L500” に装備されている EQ のオプションとして、32 バンドのグラフィック EQ (ゲインレンジを 6dB、12dB、18dB から選択可能)、10 バンドのパラメトリック EQ (バンド単位にフィルターキャラクターを選択可能)、また SSL のユニークな G-EQ があります。



Dynamics

SSL の誇るチャンネルダイナミクスに加えて、エフェクトラックには SSL お馴染みの Stereo Bus Compressor と Listen Mic Compressor が、高品位ディエッサー、ダイナミック EQ (バンドパスコンプレッサー)、ゲート、トランジェントシェイパーとともに用意されています。



Noise & Warmth

VHD サチュレーターは SSL アナログコンソールに搭載されている VHD (バリアブルハーモニックドライブ) をデジタルでエミュレートしたエフェクトで、2 次倍音から 3 次倍音までの歪成分を連続可変で付加することによりトランジスタの硬さから真空管の柔らかさまでサウンドを自在にコントロールできます。“Denoiser” は素材のノイズ成分を除去するためのツールとして、エンハンサーは EQ とは違う周波数コントローラーとして機能します。またピッチシフターは極めて自然でスムーズに動作します。

Effects



Reverb

リバーブは SSL の X-Verb プラグインのアルゴリズムを採用しています。内蔵のリバーブツールキットはスタジオのハードウェアリバーブ機器と同レベルの深みと正確性を持っています。リバーブツールキットには Gated、Early Reflection、リバーブとともにボーカルプロセッサと 'D Gen' エフェクトプロセッサも含まれています。



Delay

シンプルなディレイからマルチタップディレイまで数種類のディレイを搭載しています。クラシックなディレイとマルチタップディレイの2つのプロセッサは、モジュレーションやフィルターを駆使し、複雑なディレイを構成できます。



Modulation

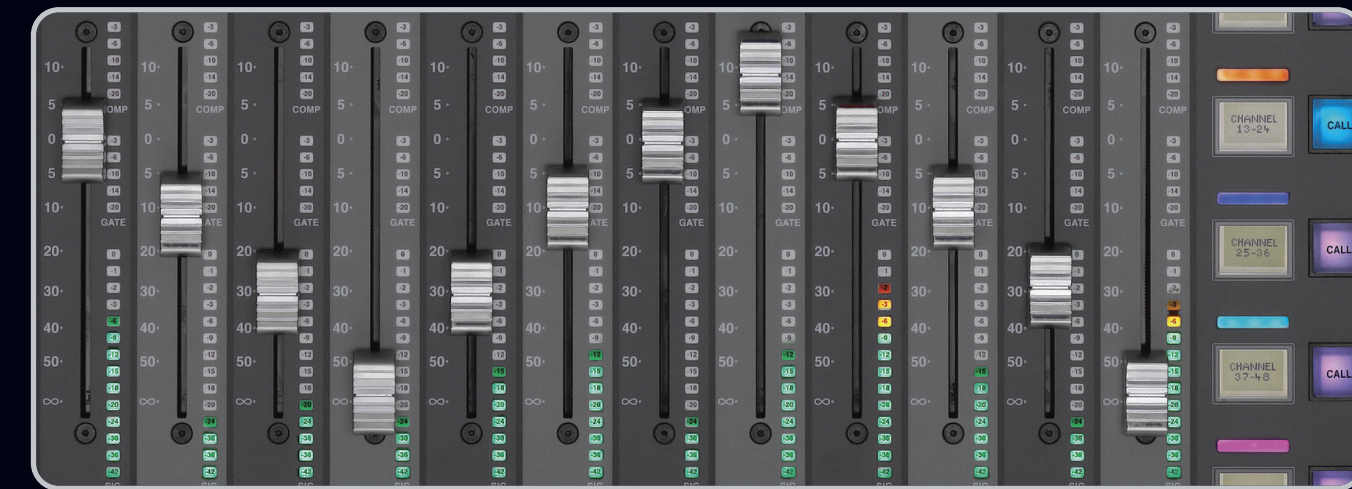
スタジオとライブの現場からのアイディアにより、SSL はクラシックな温かみのあるサウンドに深みと個性を与えた多様なモジュレーション・エフェクターを作り出しました。

モジュレーションには、Band、Split Flanger、Classic Flanger、Envelope Flanger、Classic Phaser、Chorus、Guitar Chorus が含まれています。



Audio Toolbox

“Live L500” は、ライブシステムセットアップの際に役に立つ多機能なトーン/ノイズジェネレーターを装備しています。精度の高い SPL メーターと内蔵の FFT アナライザーは正確なオクターブごとの固定点をアナライズでき、周波数スペクトラムにより正確な音響解析が可能です。



Dialogue Automix

SSL の放送用デジタルコンソールで高い評価をいただいている“ダイアログ・オートミックス”機能を搭載しています。ミキシングエンジニアにとってもっとも困難な作業のひとつとして、例えば授賞式のように複数のプレゼンターが同時にあるいは連続的に話し続けるシチュエーションをスムーズにバランスを取り続けるといった仕事があげられます。ダイアログ・オートミックスはこのような作業内容でエンジニアを助けるために役立ちます。最大 12 本の関連するマイク入力に対し、相互の入力レベルに対応したレベルコントロールを自動的にかつ滑らかに行う機能です。この機能により不要なノイズを低減し、フェーダーで追い続けることなく関係するマイク入力間のレベルとバランス、音質を一定に保つことができます。

Tempest

“Such stuff as dreams are made on.”

SSL “Live L500” は ライブコンソールに求められるすべてを満たすために開発された、第4世代のデジタルオーディオプラットフォーム “Tempest” により生み出されました。SSLがデジタルミキシングコンソールに携わった25年以上にわたる経験と技術の蓄積に基づきつつ、最高の音質を実現すること以外の全てのしがらみを消し去り、全く新しい手法と言語でハードウェア・ソフトウェアを開発した、真に最新鋭のフルデジタルミキシングコンソールです。非常に強力な処理能力を持つエンジンは SSL 独自の Optimal Core Processing (OCP) によりその能力を最大限に引き出され、高効率な処理と高い信頼性とを最小限の遅延量で実現します。“Tempest” は Live コンソールに必要なサウンドツールと強大なミキシング・アーキテクチャ、プロセッシングの全てを余裕をもって提供し、大規模なイベントまで扱える拡張性も持っています。そしてその全てがコントロールサーフェイスの内部に収められています。



Live. This is SSL.

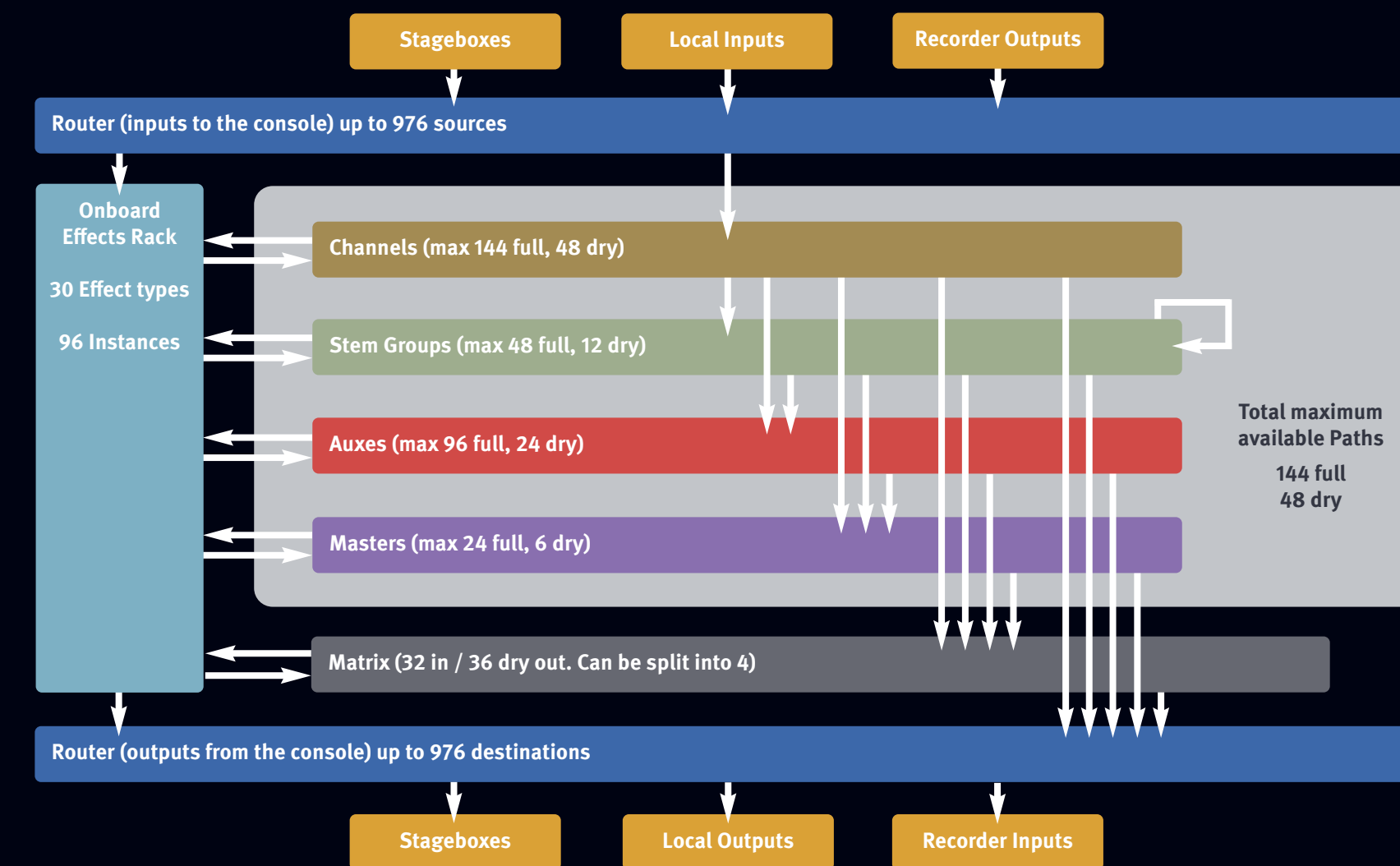
Architecture

Absolute Power and Ultimate Flexibility.

“Live L500” の処理能力の配分と I/O 構成は極めて自在に行えます。コンソールは最大 976 の物理的入出力を持つことができます。音声入出力は内蔵の I/O (ローカル I/O) とステージボックス (リモート I/O) から構成できます。内部処理は 96kHz で 192 の同時信号処理が可能で、これらをチャンネル、ステムグループ、Aux、マスターに振り分けて使用できます。それぞれのパスは、モノ、ステレオ、LCR にフォーマットフォーマット可能で、Full または Dry を任意に選ぶことができます。エフェクトは専用プロセッサが用意されています。

PA システムへの出力は独立した 32x36 のアウトプットマトリクスから送ることができます。このマトリクスへは、チャンネル、ステムグループ、Aux、マスターから信号を送ることができ、マトリクス自体を、例えば4つの独立した小さなマトリクスに分割して使用する事も可能です。ここにはそれぞれ2つのインサートポイントがあり、クロスポイントでのレベルコントロールと合わせて大規模なラインドライバや PA システムへ出力することができます。

MADI I/O は、オプションの SSL Live-Recorder や他の MADI I/O デバイスが接続できます。Live-Recorder は @96kHz で 64トラックの収録ができます。



Local I/O

Convenience and Connectivity.

デジタルコンソールの能力と音質を判断するうえで、オーディオ I/O の性能と拡張性は最も重要な要素のひとつといえるでしょう。“Live L500”は多種多様で高品質な I/O をハウスフロントからモニターアプリケーションまで全てカバーできる規模で用意しています。“Live L500”の I/O は、SSL SuperAnalogue™ アナログコンソールクラスの性能と高音質を誇り、周波数応答特性は 20 Hz から 20 KHz で 0.05 dB 以下 (10Hz で 1.3dB ダウン)、歪率は 0.005% を実現しています。DA コンバーターは全て 24bit/96kHz で処理され、コンソールの内部処理もすべて 96kHz で行われています。ローカル および リモートの Mic/Line 入力アンプは SSL が特許を持つ独自の高音質回路を採用しています。この回路は電解コンデンサーを使用せず DC カップリングで構成されています。マイクアンプのゲインコントロールは 16,000 ステップ以上の細かさで正確にコントロールされており、滑らかなゲイン変化とコモンモードノイズの除去、超低歪みの両立を実現しています。

“Live L500”は多様な I/O をコンソール本体の内部に実装しており (ローカル I/O)、ステージボックスなしでの運用が可能です。“Live L500”は接続された I/O ユニットの自動認識し、接続後すぐに使用可能になります。標準のローカル I/O は、アナログ系が 14 Mic/Line 入力、2ch の Talkback 専用 Mic/Line 入力、12ch Line 出力、4ch のヘッドフォンモニター用出力があり、ローカルで最大 32ch のアナログ入出力に拡張できます。デジタル系は AES/EBU 入出力が 4 ペアずつで、ローカルで 8 ペアずつに拡張できます。AES/EBU 入出力はすべて SRC を装備しています。また 12 系統まで MADI ポートを装備する事ができます (リダンダント接続可能)。それに加えて ‘FX Loop’ という独立した MADI ポートがあり、ラップトップ PC などを使用した外部エフェクトに使用できます。その他、SSL 独自の I/O 規格 “Blacklight II” を使用するとシステムの拡張が可能です。電源ユニットは二重化されており、背面パネルには他に MIDI、LTC、Wordclock、GP I/O など各種のコネクターが実装されています。



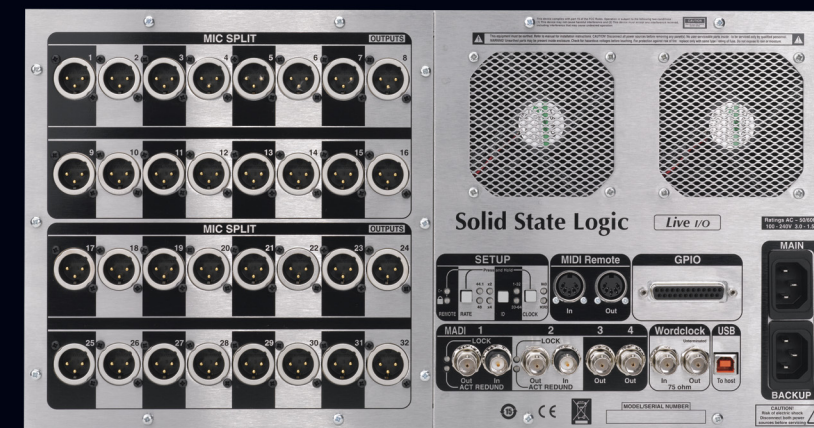
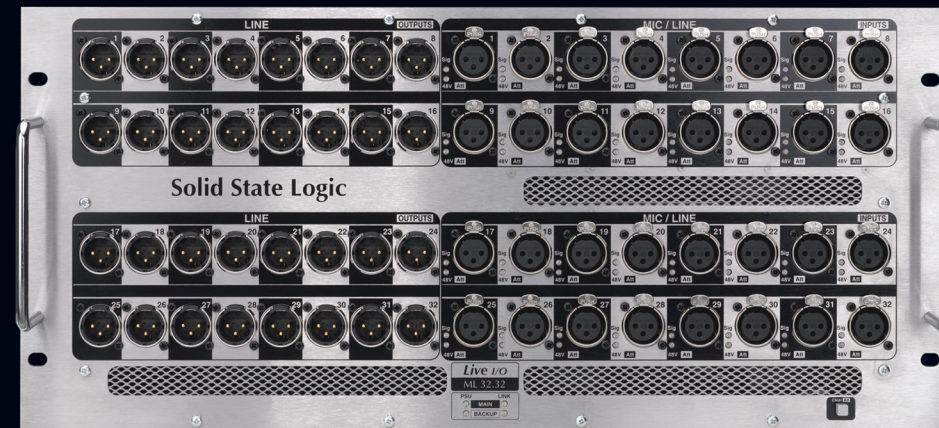
Live. This is SSL.

Solid State Logic
S O U N D | | V I S I O N

Remote I/O

Flexibility and Scalability.

“Live L500” には拡張可能なステージボックス・リモート I/O ユニットが各種用意されています。アナログ、AES、MADI の各フォーマットに対応し、コンソールとの間は MADI で接続されます。ゲインコントロールなどリモートコントロールデータも MADI を介してやり取りされます。最もシンプルな接続ではコンソールと各種ステージボックス間を MADI で接続します。より多回線が必要な場合 SSL 独自の “Blacklight II” ユニットの介してステージボックスを接続できます。“Blacklight II” は 1 ペアのファイバー接続で 256ch @ 96kHz の入出力を伝送できます。また “Blacklight II” ユニットの介して 2 台目の “Live L500” とステージボックスの信号をシェアする事が可能です。その場合マイクゲインコントロールを 2 台のうちどちらから行なうかを設定可能です。すべてのステージボックスユニットの電源は二重化されています。



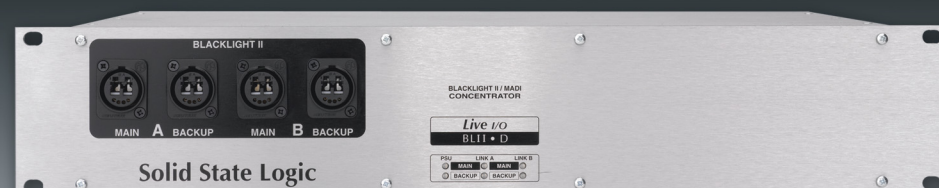
ML 32.32 - Analogue Stagebox

5U サイズの ML 32.32 アナログステージボックスは、32ch の SuperAnalogue™ Mic/Line インプット、32ch ラインアウトプットが装備されています。スプリットマイクアウト付きのユニットと、スプリットマイクアウト無しのユニットがあり、コンソール または Blacklight I/F との間の MADI 接続はリダンダント接続が可能です。また入力ソースを 2 台目のコンソールとシェアする事が可能です。



D 32.32 - AES/EBU Stagebox

D 32.32 は 2U のサイズのユニットで、AES/EBU 16 ペアの I/O (SRC付き) が用意されています。コンソール または Blacklight I/F との間の MADI 接続はリダンダント接続が可能です。また入力ソースを 2 台目のコンソールとシェアする事が可能です。



BL II.D - MADI Concentrator

BL II.D は、2U の Blacklight II MADI コンバーターです。Blacklight II は 1 ペアのファイバーケーブルで 96ch @256ch I/O を伝送できます。1 つのユニットに 4 ペア分のファイバーコネクタが用意されています。FOH、モニターで 2 台の Live L500 を使用する場合、このユニットを経由してソースのシェアをする事が可能です。



Solid State Logic   

International HQ: Begbroke, Oxford, England OX5 1RU · Tel +44 (0)1865 842300 · sales@solidstatellogic.com

Cologne: Tel +49 7001 8658 42300 · sales@solidstatellogic.com

Los Angeles: Tel +1 213 249 9229 · lasales@solidstatellogic.com

New York: Tel +1 212 315 1111 · nysales@solidstatellogic.com

Paris: Tel +33 (0)1 48 67 84 85 · frsales@solidstatellogic.com

Singapore: Tel +65 6438 2272 · sales@solidstatellogic.com

Thailand: Tel +66 2 587 5111 · Email akaraphol@ssl-bkk.com

Tokyo: Tel +81 (0)3 5474 1144 · jpsales@solid-state-logic.co.jp

Zagreb: Tel +38 513 079 405 · sales@solidstatellogic.com

© Solid State Logic. All Rights reserved under International and Pan-American Copyright Conventions. Solid State Logic and SSL are trademarks of Solid State Logic.

All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced in any form or by any means, whether mechanical or electronic, without the written permission of Solid State Logic, Oxford, England. Solid State Logic has a policy of continual product enhancement and reserves the right to alter specifications without notice. E&OE

実際の製品構成は写真のものと若干異なる場合があります。また性能向上のため仕様を予告なしに変更する場合がありますのでご了承下さい。

日本語版 © Solid State Logic Japan K.K. ソリッド・ステート・ロジック・ジャパン株式会社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-14 TEL: 03-5474-1144 FAX: 03-5474-1147

Live. This is SSL.

Solid State Logic
S O U N D | | V I S I O N